

泳げる霞ヶ浦を目指して



茨城県

霞ヶ浦

一般社団法人 霞ヶ浦市民協会 理事長 滝下利男

写真提供：霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会

霞ヶ浦市民協会と霞ヶ浦

1995年に茨城県の霞ヶ浦周辺で第6回世界湖沼会議が開催されました。この世界湖沼会議を成功させようと熱心に活動した世界湖沼会議市民の会が統合して、1996年に霞ヶ浦市民協会は発足しました。その活動理念は、世界湖沼会議で採択された霞ヶ浦宣言に基づいています。

霞ヶ浦は西浦、北浦、外波逆浦、常陸川^{そとなさかうら}などを合わせた呼び名です。面積220km²、平均水深4m、最大水深7mの広くて浅い海跡湖で、56本の河川が流入し、流域面積は茨城県全体のほぼ3分の1を占め、そこに98万人が生活しています。

霞ヶ浦の水質汚濁の要因は生活排水、畜産、農地、市街地、工場・事業場などで、これらが全体の75%以上を占めています。霞ヶ浦市民協会は霞ヶ浦の水質浄化のため、「泳げる霞ヶ浦2020市民計画」を策定し、「泳げる霞ヶ浦」を目指しています。具体的には、流域に暮らす市民が霞ヶ浦を理解し、水質改善に向けた行動を自ら起こせるよう、またそうしたことを指導できるような人材の育成を活動の目的にしています。

ここでは霞ヶ浦市民協会の主要な活動について紹介します。

小中学生集まれ！霞ヶ浦サマースクール

霞ヶ浦の自然を楽しみながら、体験を通して学ぶプログラムで、次世代を担う小中学生を対象として、船

で霞ヶ浦を巡りながら霞ヶ浦の歴史、水産業、水の利用などについて学習し水質測定も行います。また、霞ヶ浦に生息する魚、植物、プランクトンなどを観察しながら、洗剤を使わないで食器を洗うことができるアクリルタワシづくりにもチャレンジします。



霞ヶ浦サマースクール 投網の体験

霞ヶ浦博士になろう！霞ヶ浦検定

地域の宝である霞ヶ浦について理解を深め、地域の関心を高めようとするのが霞ヶ浦検定です。流域の自然、地理、歴史、文化、環境等について理解を深め、霞ヶ浦を大切にする市民、語り伝える人材を育成することを通して、霞ヶ浦の水質改善と地域の活性化を目指しています。霞ヶ浦検定は地域全体で

取り組むべき事業として、行政、報道関係者、民間団体などの協力を得て実施しています。



霞ヶ浦検定 合格者の認定証授与

楽しもう！泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル

霞ヶ浦の湖畔において、水質浄化の啓発イベントとして実施しているのが「泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル」です。霞ヶ浦流域の行政、水資源機構をはじめとする関係機関、各種団体などが一堂に参加する行事で、毎年7月の海の日に開催されます。

このフェスティバルでは霞ヶ浦とのふれあいを大切にし、湖上での水質検査、水辺での遊びやゲーム、霞ヶ浦に生息する魚類や植物とふれあったりします。また、水質浄化の技術や市民ができる生活排水対策、霞ヶ浦の水利用だけでなく、霞ヶ浦の水を浄化して上水道に再使用されることなどを紹介し、霞ヶ浦のことを知る貴重な機会となっています。今年は20回の節目を迎え、記念大会として実施する予定です。



湖岸で行う「泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル」

水辺で遊ぼう！里浜再生の活動

当協会は2020年「泳げる霞ヶ浦」を目指し、現在「水辺で遊ぼう」をスローガンとして、霞ヶ浦に里浜を再生し、霞ヶ浦とふれあえる場所を造っています。

霞ヶ浦にはかつて湖水浴場が13か所もありましたが、水質の悪化とともに昭和40年代にはすべて廃止されました。加えて、砂浜は魚介類の生息に必要であり、水質改善の機能も持つ場所ですが、霞ヶ浦に湖岸堤を築いたことなどが原因で、かつての砂浜が消失し、霞ヶ浦の水辺に行ける場所が減少しました。

土浦市内手野町の湖岸には、かつて前浜として造成された場所があります。ここを遊べる里浜に再生しようと数年前より活動しており、生い茂った草木を刈り取り、清掃イベントを企画して大量のごみを取り除いてきました。今年2月には建設機械メーカーの協力を得て、一部地域ですが重機ではびこったヨシの根を除去しました。試行錯誤の里浜再生ですが、今後も「泳げる霞ヶ浦」を目指し各種活動を継続していく予定です。



里浜再生のための湖岸清掃活動



はびこったヨシの根を除去した里浜再生実験の湖岸